

# 倫 理 学

2020 年 第 36 号

## 桑原直己教授 退職記念論集

	桑原直己教授略歴・研究業績 .....	1
桑 原 直 己	筑波大学最終講義 トミズムの歴史と意義 .....	13
菅 野 孝 彦	内的世界の冒険者たち (七) .....	29
	——画家、松本竣介——	
笠 井 哲	沢庵禅師における人間観について .....	45
五十嵐 沙千子	哲学における幸福論 .....	57
	～ヒルティ、アラン、ラッセル～	
千 葉 建	内的義務の考古学序説 .....	89
	——カントの義務論の源泉としてのヴォルフ学派の 義務論	
大 石 桂 子	認知症ケアと医療 .....	101
	——福祉の場における共同的な意思決定について	
阿久戸 義 愛	カール・バルトの「信仰の類比」と自然本性論 .....	111
岸 本 崇	甘えと被害者意識の再検討 .....	119
石 田 隆 太	トマス・アキナス『「魂について」註解』 .....	127
高 石 憲 明	第三巻第五章 試訳	
Shizuka MAKINO	Miyazawa Masajiro's Faith and Kenji's Conversion .....	xxiii
	— <i>On The Spider, the Slug, and the Raccoon and The Great Vegetarian Festival</i> —	
Naotaka HASUNUMA	<i>Zazen</i> in D. T. Suzuki's religious thought .....	i

# 筑波大学倫理学研究会規約

第一条（名称） 本会は筑波大学倫理学研究会と称する。

第二条（目的） 本会は倫理に関する研究およびその普及を目的とする。

第三条（所在地） 本会の事務局は筑波大学大学院人文社会科学研究科哲学・思想専攻内に置く。

第四条（事業） 本会は以下の事業を行う。  
一、研究会の開催  
二、機関紙『倫理学』の発行  
三、その他必要な事項

第五条（会員） 本会は以下の者を会員とする。

- 一、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学の教員、教員であった者、卒業生で入会を希望する者。
- 二、筑波大学の大学院生、大学院生であつ

た者で入会を希望する者。  
三、会員の紹介により、本会の趣旨に賛同し入会を希望する者。

第六条（会費） 会員は会費（年額四千元、院生会員は三千元）を納入するものとする。

第七条（年度） 本研究会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日とする。

第八条（役員） 本会に次の役員を置く。  
会長 一名 本会を代表する。  
幹事 一名 会務を処理する。  
会計 一名 会計を行う。  
監事 一名 会計を監査する。

第九条（規約改正） 本規約の改正は総会の決議による。

附則 本規約は二〇一〇年三月二十六日より施行する。

以上

# 編集・発行について

- 一、本誌は、倫理学に関する研究論文を掲載する。
- 二、本誌は、毎年度一回発行するものとする。
- 三、本誌に掲載する論文は、審査委員会の審査を経るものとする。審査委員は、筑波大学人文社会科学研究所哲学・思想専攻の倫理学分野関係教員とする。
- 四、連絡先（事務局）は、筑波大学人文社会科学研究所哲学・思想専攻気付とする。

## 倫 理 学 第 三 六 号

二〇二〇年三月二〇日発行

〔編集・発行〕

〒 305 | 8571 茨城県つくば市天王台一 | 一 | 一  
筑波大学人文社会科学研究所哲学・思想専攻  
気付

筑波大学倫理学研究会

〔郵便振替〕

〇〇三六〇 | 一 | 四一七三四

〔印刷所〕

佐藤印刷株式会社

〒 310 | 0043 茨城県水戸市松が丘二 | 三 | 一 | 三 | 三

電話 〇二九 | 二五 | 一 | 一 | 二 | 二

# ETHICS

## RINRIGAKU

No. 36

March 2020

Naoki KUWABARA	The Last Lecture in the University of Tsukuba – The History and the Significance of the Thomism –	13
Takahiko KANNO	Abenteurer in innerliche Welt VII – Syunsuke MATSUMOTO –	29
Akira KASAI	View of Human Being in Takuan Zenji	45
Sachiko IGARASHI	The Theory of Happiness in Philosophy – Hilty, Alain, Russell –	57
Ken CHIBA	Prolegomena zu einer Archäologie der innerlichen Pflicht. Die Pflichtenlehre der Wolffischen Schule als eine Quelle der Kantischen Pflichtenlehre	89
Keiko OISHI	Dementia Care and Medical Care – On Collective Decision Making in Welfare Field –	101
Yoshiya AKUDO	Analogia Fidei and Natura Humana in Karl Barth's Theology	111
Takashi KISHIMOTO	Reexamination of Victimhood in the Anatomy of Dependence	119
Ryuta ISHIDA / Noriaki TAKAISHI	A Translation of Thomas Aquinas's <i>Sententia libri de anima</i> , lib. 3, cap. 5	127
Shizuka MAKINO	Miyazawa Masajiro's Faith and Kenji's Conversion – <i>On The Spider, the Slug, and the Raccoon and The Great Vegetarian Festival</i> –	xxiii
Naotaka HASUNUMA	<i>Zazen</i> in D. T. Suzuki's religious thought	i

Published by

UNIVERSITY OF TSUKUBA  
RINRIGAKU KENKYUKAI